

疑似体験で 情報モラル学習

やってみよう体験しよう！
ネットショッピング 編

日本ネット経済新聞の調査によれば2014年度のインターネット通販（ネットショッピング）売上合計は3兆2,861億円となり、上位100社の売上を同様の前回調査（14年6月実施）と比べると、3,346億円増加したとのこと。また、ネットショッピングといえはAmazonというほど日本では圧倒的な売り上げを誇るアマゾンジャパンの2015年度売り上げは1兆円に肉薄するもので、これは2014年12月期の日本の売上高から20.4%の増収となったそうです（為替レートの影響もあったようですが）。

このようにネットショッピング市場は現在も著しい成長を続けており、今後ますます我々の利用機会も増えるものと予想されます。ネットショッピングを利用しない方には遠い世界の出来事のような印象があるとは思いますが、2015年2月の一般財団法人「草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会（Grafsec-J）」の総会で、地方在住の子ほどネットショッピングの経験が高いという報告がなされました。最先端のものが通販で気軽に自宅から購入できるということで、装飾品等への購買意欲の高い若年層の利用が目立つというものでした。

しかしながら利用しない人にとっては、ネットショッピングのシステムが分からず、世代間格差、経験者格差は広がる一方です。そこで今回、ネットショッピングの疑似サイトを構築しました。本物のショッピングカート（ネットショッピングで使用されるツール）で使用されているプログラムを使い、確認メールも返信される本格的なものになっています。まだ経験がないという方は、是非この機会に、ネットショッピングの実際に触れてみてください。

利用が拡大してくるとネットショッピング詐欺も横行しています。

詐欺サイトの見分け方は、警視庁や全国銀行協会のホームページに掲載されていますが、内容をまとめると以下のようになります。

引用：警視庁「通信販売サイトでのトラブルにご用心！」

◆運営者情報の確認

通信販売サイトを運営する場合、特定商取引法に基づく表記として、事業者の責任者名、所在地、電話番号等の記載が義務付けられています。

通信販売サイト事業者の所在地や電話番号が掲載されていない、連絡先にフリーメールア

ドレスを掲載されているサイト等を利用して、取り引きの途中で連絡が取れなくなり商品の受け取りも、返金を求めることもできなくなる場合があります。

インターネットで情報を収集したり、電話連絡が取れるかを確認し、正規サイトか疑わしい場合は利用を控えてください。

◆決済方法の確認

振り込んだ代金を回収することは非常に困難です。銀行振り込みによる前払い決済だけでなく、クレジットカード支払いや代金引換等の後払い決済方法も用意されているかを確認しましょう。銀行振り込み決済の際には、通信販売サイトの事業者名や責任者名と口座名義人が異なる場合や、外国人名義の口座の場合は、十分に注意してください。

クレジットカード決済等を希望しても、システムの不具合等を理由に、結果銀行振り込みに誘導されることもあります！

◆価格が極端に安い

極端に安い価格での販売や、「80%off」等の極端な値引きがされている場合は注意が必要です。

◆不自然な日本語表記

「休業日：365天受付」等の不自然な日本語や、中国語の簡体語等の漢字のフォントを使用している場合もあります。無関係の通信販売サイトのロゴやサイト名等を無断で掲載している場合があるので、URLと見比べて正規ショッピングサイトかを確認しましょう。

【参考 URL】

◆国民生活センター

インターネットトラブル

<http://www.kokusen.go.jp/topics/internet.html>

◆消費者庁

インターネット消費者トラブル

http://www.caa.go.jp/adjustments/internet_trouble/

決済について

http://www.caa.go.jp/adjustments/internet_trouble/payment.html

◆警視庁

通信販売サイトでのトラブルにご用心！

<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/haiteku/haiteku/haiteku429.htm>